実 績 報 告

診 療 部

- 医　　局
- 歯　　科
- 薬　剤　科
- 放 射 線 科
- 臨 床 検 査 科
- 栄　養　科
- 心　理　室
- 総 合 支 援 室
- デ イ ケ ア 科
- 作 業 療 法 科

診　療　部

診療部は、医局、歯科、薬剤科、放射線科、臨床検査科、作業療法科、栄養科、総合支援室、心理室、デイケア科で構成されている。

平成26年度は、平成28年度の精神科救急病棟開設に向けて、準備期間として、それぞれの部所で構想を考えた。

文 責　**川嶋　義章**

【種　別】

精神科

【職員数】

11名（精神科医 9 名、内科医 1 名、事務員 1 名）

＊精神科医 9 名のうち精神保健指定医 8 名、精神保健特定医師 1 名、精神科専門医 6 名

平成26年度は、 4 月より熊田医長を迎え、診療体制が充実したものになった。

【業務内容】

外来診療および入院診療が主な業務である。なお平成27年 1 月より新澤医師が特定医師の資格を取得。12時間を限度とした医療保護入院、応急入院、任意入院患者の退院制限の業務が新澤医師単独で可能となった。これに伴い、事後審査委員会が設置された。

［精神科救急］平成26年度、新潟県の精神科救急システムは、平日夜間、北圏域・南圏域の完全 2 圏域制となった。南浜病院は北圏域の基幹病院に位置づけられ、水曜日の全部と木曜日の 3 / 4 を担当した。また、休日昼間、休日夜間も例年通り輪番で担当した。実際には夜間は平日・休日合わせて年間104日、休日昼間は年間16日を担当した。

実績としては電話対応のみ48件、診察43件、入院25件であった。

［時間外診療］平成28年度からの救急病棟開設を目指し、時間外診療を積極的に受け入れた。（実績参照）

［クリニック業務］川嶋副院長、豊岡医長、澁谷医長、熊田医長がとよさかクリニックに出張し、稲月医師と共にクリニックの診療にあたった。

［地域精神保健への協力］

措置鑑定 7 件（平成25年度 6 件）、措置入院17件（同 9 件）、簡易鑑定 2 件、また県や市の精神保健に関する各種会議、思春期相談事業、精神医療審査会、医療観察法の判定医業務、認知症サポート医、産業医業務などの協力を行っている。平成26年度より、北区医療と介護のささえあいネット（ござれやネット）に参加。後藤院長が同ネットワークの顧問を務めることになった。

［会議・委員会］

医局連絡会議；基本的に第 1 と第 3 月曜日、午後 4 時半から、30分～ 1 時間で開催されている。主な参加者は、医局、事務部長、看護部長、その他必要に応じて参加する各部署の担当者である。同会議では、病院の診療に関わる様々な議題について報告、議論、提案がなされた。

その他、病院の各種会議・委員会には、全体会議；医局医師全員、経営委員会；鈴木理事長、後藤院長、川嶋副院長、医療安全対策委員会・リスクマネージャー委員会；川嶋副院長、院内感染防止対策委員会；後藤院長、鈴木理事長、褥瘡対策委員会；鈴木理事長、NST委員会；鈴木理事長、行動制限最小化委員会；豊岡医長、医療観察法運営委員会；後藤院長、衛生委員会；後藤院長、薬事委員会；鈴木理事長、後藤院長、川嶋副院長、病院食検討委員会；後藤院長、鈴木理事長、退院支援委員会；後藤院長、地域生活支援会議；澁谷医長、未収金対策委員会；鈴木理事長、後藤院長、デイケア科運営委員会；後藤院長、精神科救急病棟建設準備委員会；後藤院長、川嶋副院長、澁谷医長が参加した。

［参加学会］

第110回日本精神神経学会学術総会in横浜（後藤院長、川嶋副院長、豊岡医長）、心理教育・家族教室ネットワーク第18回研究集会in名古屋（後藤院長、川嶋副院長、豊岡医長）、第10回日本統合失調症学会in東京（後藤院長）、第19回SST学術集会in仙台（後藤院長）、日本精神障害者リハビリテーション学会第22回いわて大会（後藤院長）、日本家族研究・家族療法学会第31回大会in神戸（後藤院長）、第24回日本臨床精神神経薬理学会in名古屋（川嶋副院長）、新潟精神医学会

【今後の展望】

平成28年度の精神科救急病棟立ち上げに向けて、時間外診療、措置入院の受け入れ等を中心に、医局全体で取り組んでいく予定である。

文 責　川嶋　義章

【実　績】

平成24年度、平成25年度、平成26年度、時間外診療（外来・入院）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H24年外来	10	10	8	5	8	18	38	19	6	10	11	11	154
入院	1	3	0	4	3	1	2	0	2	0	7	2	25
合　計	11	13	8	9	11	19	40	19	8	10	18	13	179
H25年外来	10	19	20	9	19	18	7	12	13	13	6	11	157
入院	5	7	3	4	1	5	1	5	4	8	1	4	48
合　計	15	26	23	13	20	23	8	17	17	21	7	15	205
H26年外来	7	6	7	16	20	17	12	18	9	11	5	9	137
入院	6	10	9	6	6	3	6	7	3	3	2	8	69
合　計	13	16	16	22	26	20	18	25	12	14	7	17	206

【職員数】

7名（歯科医師6名：新潟大学医歯学総合研究科より派遣　事務員1名）

【業務内容】

病棟及び外来の患者を中心に、以下の歯科診察を行っている。

・虫歯治療、冠・義歯等の製作
・歯周病治療及びメインテナンス（定期的な検査、専門的清掃による口腔管理）治療
・歯科疾患予防検診・処置・口腔ケア
・特別養護老人ホーム「なぎさの里」への訪問歯科診療

入院患者に関しては、精神科主治医・看護師・病棟スタッフらと連携することにより、治療内容やメインテナンスの期間等、患者の状態に合わせた治療を提供している。

なぎさの里への訪問診療についても、看護師及びスタッフと連携して、綿密な治療計画のもと、QOLに配慮した口腔ケア・歯科診療を行っている。

デイケア科、生活訓練施設「いなほ園」のメンバーを対象に口腔ケアの必要性、予防歯科の大切さについての講演や口腔清掃指導を行っている。

【今後の展望】

院内にある歯科という特長・意義をふまえ、生活習慣の改善と歯科疾患の予防に重点を置き、継続した口腔管理を積極的に行う。患者の口腔状態を改善することにより、全身の健康をサポートする。また、訪問診療・口腔ケアを通して、来院困難な患者に対しても口腔健康増進に努め、QOLの向上に貢献する。

文 責　**伊藤きみ子**

【実　績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
診療延べ人数	161	140	166	180	146	154	183	161	164	136	151	158

薬剤科

【職員数】

4名（薬剤師3名　事務員1名）

【業務内容】

平成20年11月の外来処方箋の院外完全移行により外来患者の調剤が無くなり、現在薬剤科における主な業務の中心は院内処方箋に基づく調剤と、病棟における薬剤管理指導業務となっている。また、平成25年以降は薬物治療情報が電子カルテにおいて一元化された為、各部署からの薬剤情報への問い合わせが増加した。その他、心理教育での病棟及び家族会での薬剤啓蒙講義、各病棟で行われるケースカンファレンスへの参加、各種委員会（医療安全対策委員会、リスクマネージャー委員会、院内感染防止対策委員会、褥瘡対策委員会、NST委員会、教育委員会等）への参加とチーム医療関連の業務も近年多くなってきている。また例年全国規模で行われる精神科における処方調査（精神科臨床薬学研究会により行われる調査）にも参加しており、当院での薬物治療の処方状況把握、及び全国との比較を行い医師にフィードバックしている。

【今後の展望】

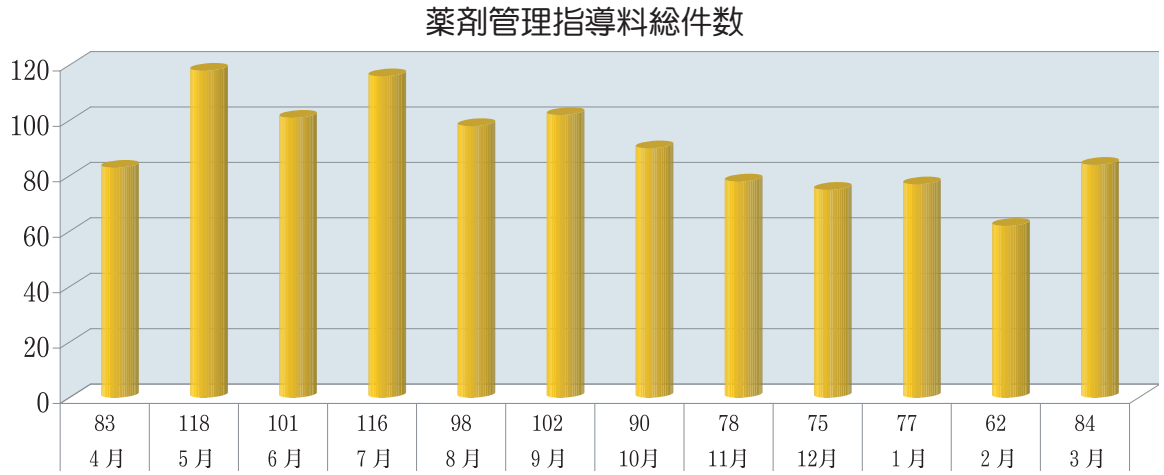
平成28年には精神科救急病棟が開設予定となっており病院全体としてこの一大事業に向けて力を注ぎこんでいる。薬剤科としても今まで培った経験を生かしこの取り組みへ寄与していく。今後前述のような病院の方向性とも相まってチーム医療関連の業務が増えると予想されるが、各専門職と協働しながら、更には薬剤師独自の服薬指導等で得た情報を医師に還元することにより、安全で適切な薬物治療がなされるよう努力していきたい。また薬剤師の原点である調剤に関しても現在では自動化が進んで久しく、調剤時間の短縮にこの自動化が無くてはならない存在となっているが、過信せず正確な調剤を行うことを心掛けていきたい。

文責　川島　伴子

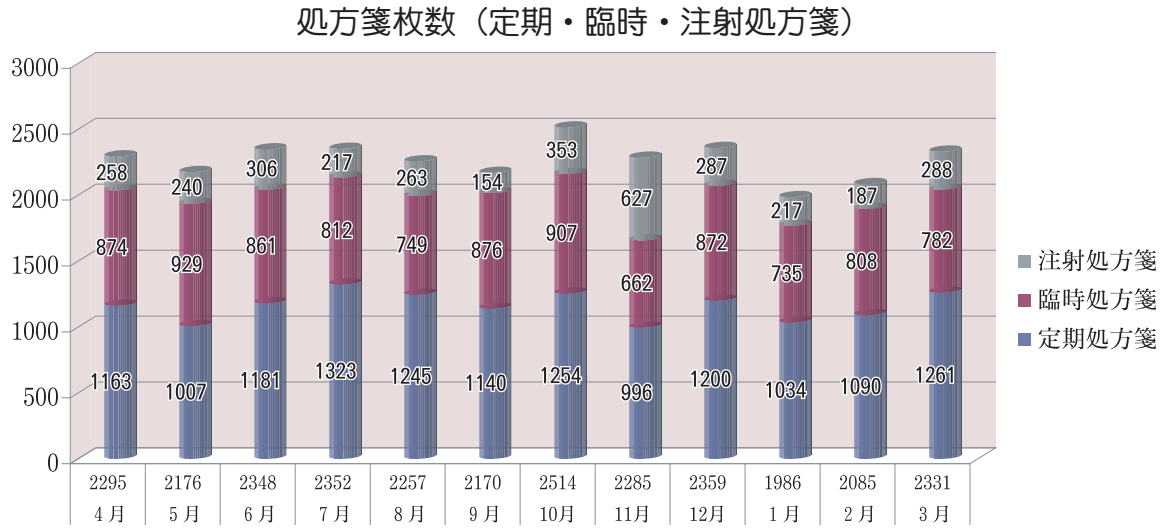
【実　績】

①薬剤管理指導料件数

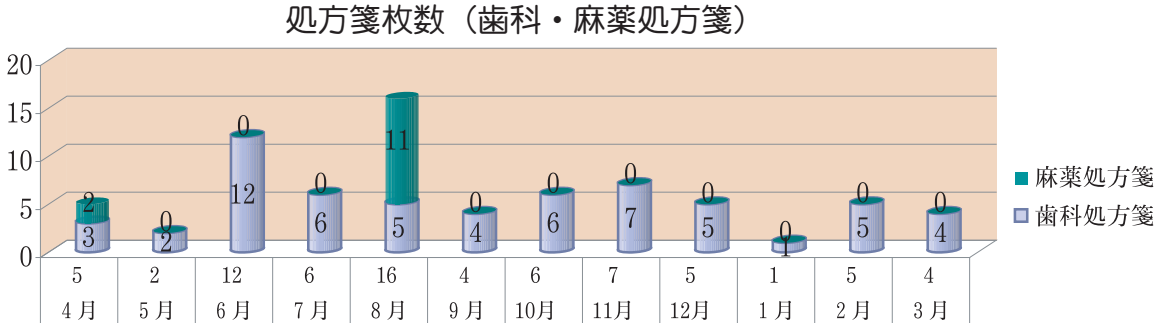
（薬剤管理指導料２・薬剤管理指導料３・退院時薬剤情報管理指導料の合計件数）



②処方箋枚数（定期・臨時・注射処方箋）



③処方箋枚数（歯科・麻薬処方箋）



放射線科

【職員数】

2名（診療放射線技師2名）

【業務内容】

主治医等からの指示により一般撮影とＣＴ検査を実施している。一般撮影は主に胸部と四肢骨の部位が多く、ＣＴ検査は頭部が多い。部位ごとでは頭部は器質性脳病変の検索および定期的な経過観察の目的で、胸部は肺疾患の検索と経過観察、腹部は消化器系疾患の検索を目的として行なっている。ＣＴ検査の画像は外部の専門機関へ依頼し、後日、画像診断専門医による読影レポートの内容をＰＡＣＳ内に保存、電子カルテ上に転記している。

ＰＡＣＳと接続されている電子カルテの端末から必要な画像を閲覧し易いように、ＰＡＣＳ内に保存されている画像データを管理している。近隣地域の医療機関との連携により、提供された画像をＰＡＣＳに取り込み、該当する画像を医療機関に提供している。

今年度は、平成16年9月半ば頃から使用してきた一般撮影のＣＲ装置の更新を行なった。今回更新したＣＲ装置はクリニック仕様のコンパクトな構造であり、操作も簡易である。一般撮影（胸部・腹部・骨関節）後のＸ線画像がモニタ画面上に明瞭に表示され、特に肺疾患の評価には次の検査（ＣＴ検査）を実施するかどうかの判断が行ない易くなっている。

医療機器の保守契約に基づいた保守点検を一般撮影装置とＰＡＣＳ装置は年1回、ＣＴ装置は年2回行ない、いずれも正常な状態であった。同様に、法令に定められている放射線管理区域境界における漏えいＸ線線量測定を所定の方法で2回行ない、歯科外来のＸ線撮影室を含めて、全ての測定場所における漏えいＸ線は認められていない。

【今後の展望】

設置されてある医療機器の日常点検と定期な保守点検を行なうことで、医療機器のトラブルを未然に防いでいく。そして、患者の病態を的確にとらえ評価が行えるように、習熟している技術で日々の業務を遂行していきたい。

一般撮影およびＣＴ検査時における患者の身体的負担を抑えながら、精神科疾患の治療のサポートに努めていく。

文責　石田　　均

【実　績】

〈検査数〉

・一般撮影回数

撮影部位	回　数
胸　　部	596
（胃チューブ確認）	（72）
腹　　部	34
骨・関節	87

※胸部撮影回数は胃チューブ確認の撮影回数を含む。

・ＣＴ検査数　　総検査数：556件

検査部位		件　数
頭　部	外　来	131
	入　院	258
胸　部	外　来	2
	入　院	107
腹　　部		51
脊　　椎		6
そ　の　他　※		1

※頚部～骨盤部（Ai目的）

〈医療機器保守点検等〉

医用機器	保守点検実施月日	漏えいＸ線量測定月日
一般撮影装置	平成26年8月4日	平成26年8月4日
全身ＣＴ装置	平成26年8月4日 平成27年2月16日	平成26年8月4日 平成27年2月16日
ＰＡＣＳ	平成26年11月12日	
歯科撮影装置		平成26年5月12日 平成26年11月17日

〈医用画像の入出力〉

・当院→他医療機関：29件

・他医療機関→当院：19件

【職員数】

2名（臨床検査技師2名）

【業務内容】

全入院患者及び外来受診者の臨床検査（検体検査・生理検査等）を実施している。検体検査では入院患者に対し、原則毎月1回（療養病床では指示により3ヶ月毎の方もいる）の定期採血を実施し、身体的変化をフォローしている。また定期採血に合わせて向精神薬の薬剤血中濃度も同時に測定し、薬剤治療における適切な治療域管理を実施している。外来受診者においても年1回の採血を原則とし、病態及び服薬状況に合わせて検査頻度を変えて身体的状況の把握に努めている。

生理検査では主に心電図検査を定期的に実施しており各病棟の形態に合わせて検査頻度を設定している。脳波検査は医師の指示により個別に実施している。外来受診者においても入院患者と同様に検査を実施している。

その他職員健診は年2回実施しており春の健診は全職員を対象に、秋の健診は夜勤業務従事者を対象として実施している。

今年度は新たに免疫発行測定装置（富士レビオ㈱：ルミパルスG600Ⅱ）を導入し、甲状腺項目（TSH, FT3, FT4）とヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド（BNP）が院内測定可能となった。これにより甲状腺疾患並びに心不全治療に対してより迅速な治療に貢献できると思われる。

【今後の展望】

近年、新規患者が増加したことで検査数も増えここ4～5年で検査数は倍近くに増えた。また患者増に伴い多種多様な疾患を持つ患者が増え、検査に対する必要性が増してきていると感じている。

これからの病院の発展並びに今後の医療業界の進歩に合わせ、絶えず新しい情報を収集し、将来性のあるシステム作りを行い臨床に貢献していきたい。

文 責　**村木　憲一**

【実　績】

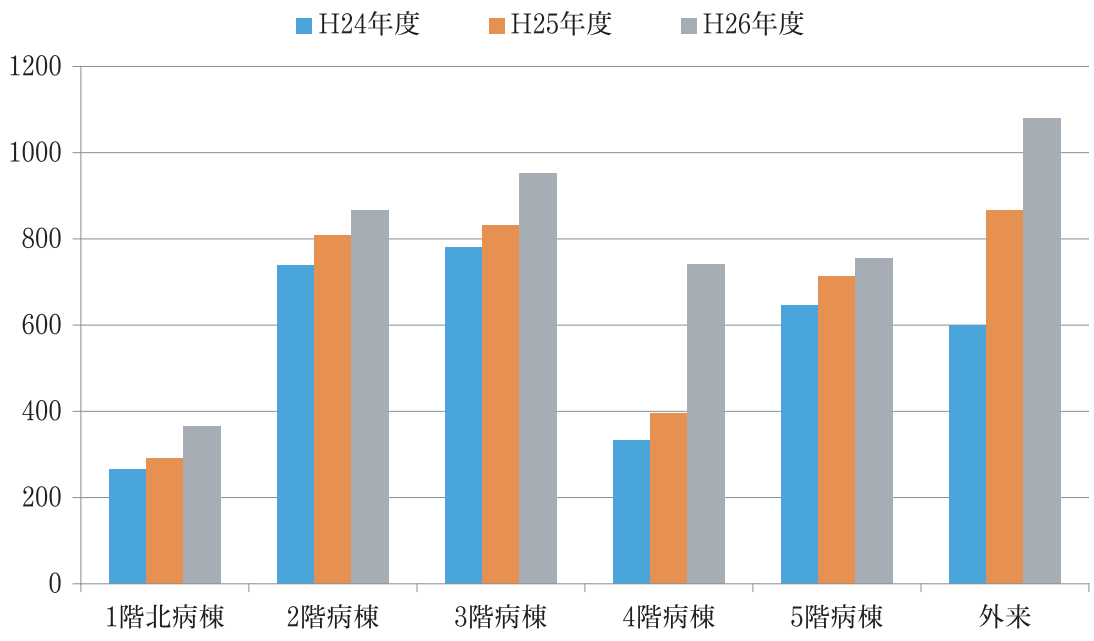
検体検査実績一覧

	平 成 25 年 度	平 成 26 年 度
1　階　北　病　棟	292名（　9,622件/内 TDM 61件）	365名（ 11,874件/内 TDM 92件）
2　階　病　棟	808名（ 26,409件/内 TDM 68件）	866名（ 29,221件/内 TDM 84件）
3　階　病　棟	832名（ 27,820件/内 TDM123件）	952名（ 32,484件/内 TDM224件）
4　階　病　棟	396名（ 12,344件/内 TDM 67件）	740名（ 23,221件/内 TDM272件）
5　階　病　棟	713名（ 24,272件/内 TDM132件）	756名（ 25,971件/内 TDM141件）
外　　来	866名（ 33,837件/内 TDM284件）	1,080名（ 41,713件/内 TDM403件）
職　員　健　診	220名（　4,044件　）	230名（　3,841件　）
合　　計	4,127名（138,348件　）	4,989名（164,484件　）

平成26年度生理検査　実績一覧

	心電図検査実績	脳波検査
1　階　北　病　棟	114 件	0 件
2　階　病　棟	323 件	8 件
3　階　病　棟	352 件	5 件
4　階　病　棟	163 件	2 件
5　階　病　棟	205 件	3 件
外　　来	558 件	4 件
職　員　健　診	118 件	0 件
合　　計	1,833 件	22 件

検 体 検 査 実 績



【職員数】

2名（管理栄養士2名）

【業務内容】

全病棟の患者を対象に栄養管理計画書を医師、看護師、薬剤師、管理栄養士が共同で作成している。特別な栄養管理が必要とされた患者には栄養計画を掲示、定期的にモニタリングを行い適切であるか評価している。毎月ＢＭＩを算出し、入院患者の低体重や肥満者の比率を出している。低体重や低Alb値や肥満の場合、病棟や患者名、前月のＢＭＩを記載し、低栄養患者や肥満患者が毎月何名いるか一覧表を作成している。低栄養の早期発見として半年で5kg以上体重が減少した患者の一覧表も月ごとに栄養科で作成している。毎月のＮＳＴ委員会に参加し、低栄養・肥満患者の一覧表はＮＳＴ委員会の参考資料として使われ、他職種との情報共有に活用している。

栄養指導指示箋に基づき、入院・外来患者に栄養指導を行っており、3階・5階病棟の心理教育のなかで栄養に関する集団教育を実施している。作業療法の調理実習では、衛生指導に加え調理法や栄養成分に関する説明をし、デイケアでは生活習慣を予防する内容等の講義を行っている。また、毎月「みなみはま栄養たより」を作成し、健康や栄養に関する情報提供をしている。

検食簿や毎月の残菜調査結果を参照し、給与栄養目標量に基づいた献立を作成している。日本人の食事摂取基準の改定にともないエネルギー量と塩分量の設定を次年度から変更できるよう検討している。嗜好調査や病院食検討委員会で挙げられた意見を基に行事食やイベント食のほか、地産地消メニューを提供している。5階病棟では月に1回ランチビュッフェを行い、食事を通して患者の選択が広がるよう立案している。昼食時に病棟訪問を行い、患者の摂食状況を確認している。

委託会社と協力し、食材料管理・衛生管理・施設整備管理のほか、配膳前の確認作業を委託スタッフと一緒に行っている。

【今後の展望】

入院・外来患者を対象とした集団栄養指導や調理実習を実施し、入院中や在宅でも患者自身が健康管理に取り組めるよう支援する。また、摂食障害や高齢者を対象としたハーフ食の導入と地産地消に力点を置き、地域、生産者との交流により、食への興味や安心を感じてもらう。

文責　吉川　　萌

【実　績】

⑴　提供食事数

延食数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入　院	23,547	24,540	22,940	23,964	23,574	22,869	23,523	23,065	23,443	23,418	21,482	23,661
ﾃﾞｲｹｱ他	1,027	926	1,045	1,108	1,050	1,030	1,081	896	903	834	854	1,028

⑵　食事提供者数

延人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入　院	7,849	8,180	7,647	7,988	7,858	7,623	7,841	7,688	7,814	7,806	7,161	7,887

⑶　栄養指導件数（入院・外来含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件　数 （うち加算件数）	21（5）	23（3）	22（5）	19（3）	38（7）	32（4）	28（1）	36（5）	28（7）	46（8）	41（4）	43（5）

心理室

【職員数】

5名（臨床心理士5名）

【業務内容】

外来・入院患者を対象に心理検査や心理面接（カウンセリング）、また患者家族を対象とした心理教育や家族相談会を行っている。その他、提携企業へのメンタルヘルス研修や行政と連携した地域での家族会を実施している。

心理検査は質問紙や投影法といった検査用具を用いて、患者の病態把握や病状理解、性格傾向などを把握し、治療の援助や心理面接へのアセスメントとして活用している。

心理面接（カウンセリング）ではアセスメントをもとに精神分析的心理療法や認知行動療法など、患者の治療に有用な心理療法を用い、困っている生活上の問題を自身でコントロールできるよう支援を行い、過去のトラウマや葛藤体験の整理を促して、更なる精神的な発達とよりよい生活への支援を行っている。

患者家族への心理教育については、家族に対する病気や薬への疾病教育と、家族の抱えている困り事や問題を家族同士でそれぞれの体験を活かして話し合う相談会を企画し、他職種スタッフと共に実施している。

その他、地域の企業や行政に出向き、ストレスケアを中心としたメンタルヘルス研修や家族相談会を実施、地域貢献にも協力している。

【今後の展望】

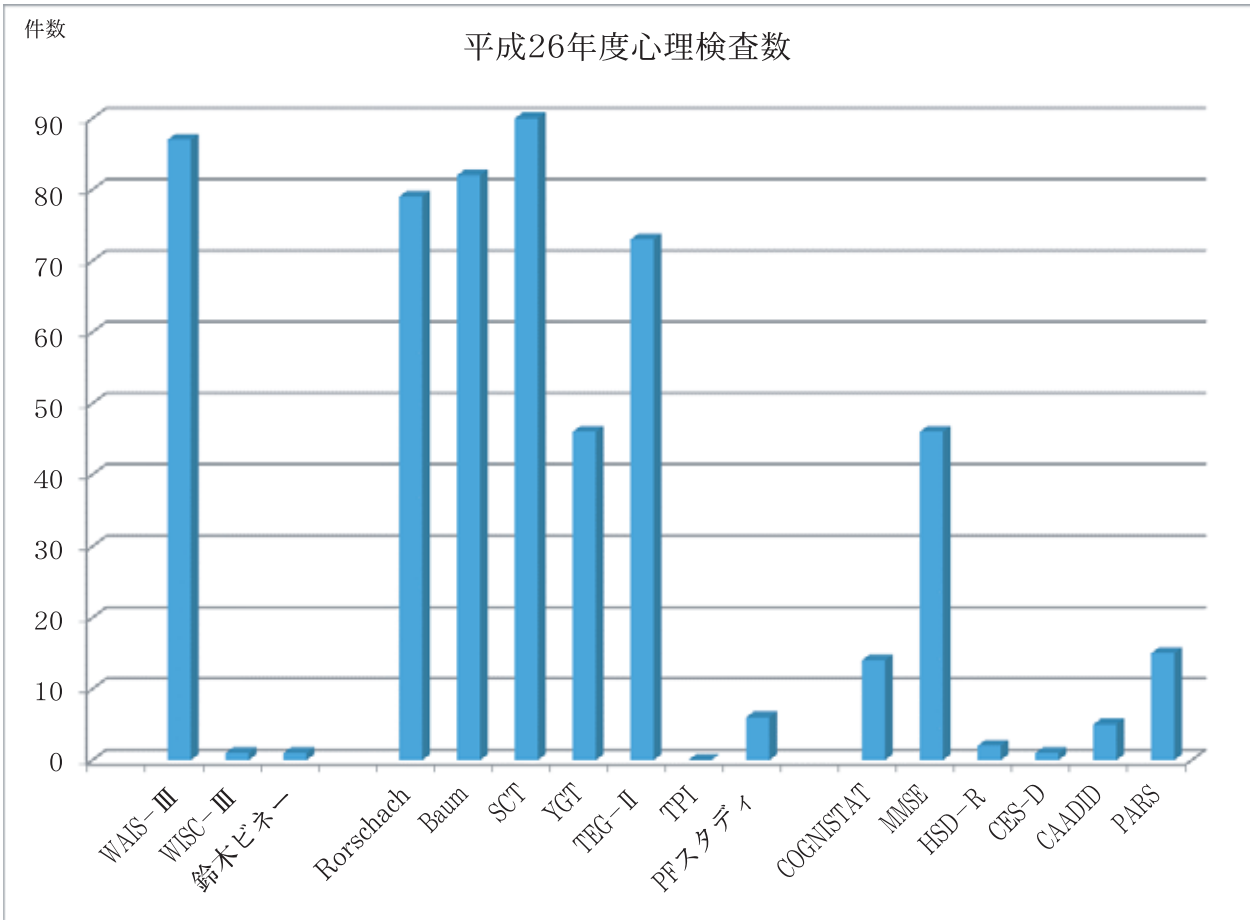
心理室では、私たちの業務である臨床心理実践が患者やその家族にとってより有効に作用していくために、日々努力・研鑽をしていきたい。

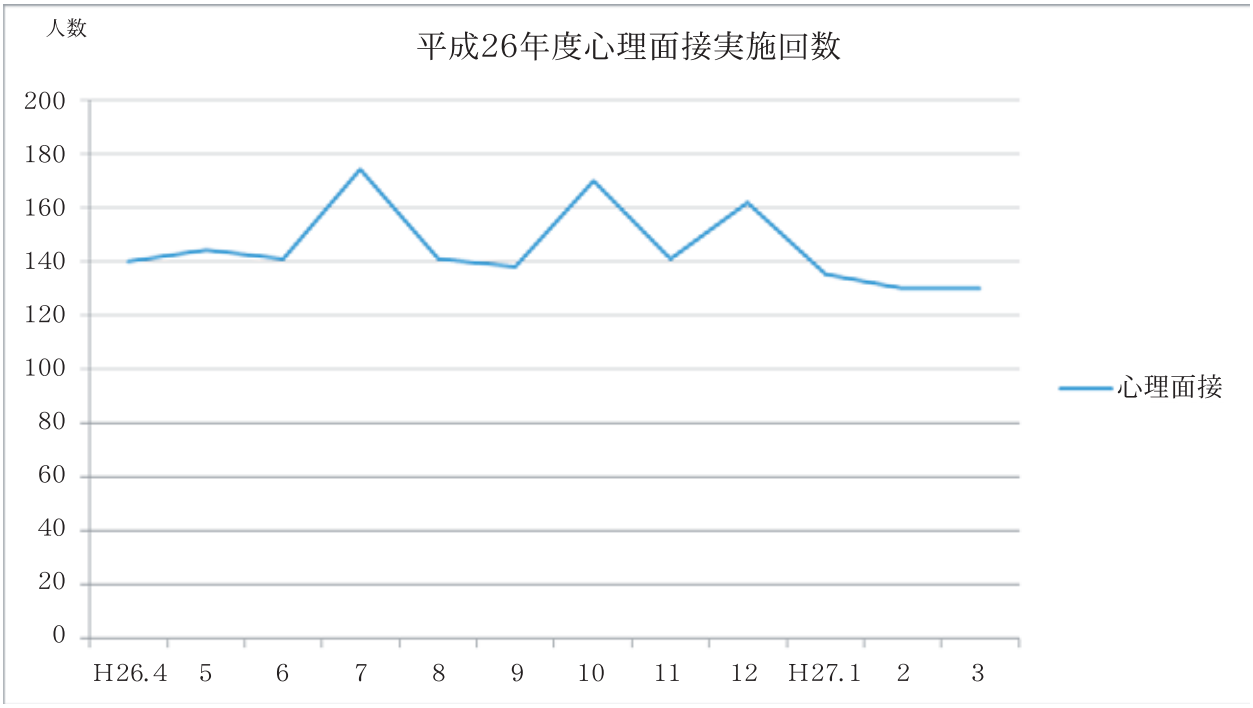
展望としては患者や家族のニーズに沿った支援を具体的、現実的に考え実践することである。また、病院の目指す地域に選ばれる病院作りのためにも、病院内に限らず、地域へも出向き、必要な臨床心理サービスを考え行っていきたい。

今年度は、平成28年度の新事業「精神科救急治療病棟開設」に向けて、心理室職員として対象患者を含め、その家族にどういった有益な心理的サービスが実践できるかを考え、準備していく年度としていきたい。

文 責　**中川甚一郎**

【実　績】


件数
平成26年度心理検査数
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
WAIS－Ⅲ
WISC－Ⅲ
鈴木ビネー
Rorschach
Baum
SCT
YGT
TEG－Ⅱ
TPI
PFスタディ
COGNISTAT
MMSE
HSD－R
CES－D
CAADID
PARS


人数
平成26年度心理面接実施回数
200
180
160
140
120
100
80
60
40
20
0
H26.4
5
6
7
8
9
10
11
12
H27.1
2
3
心理面接

総合支援室

【職員数】

14名（看護師 5 名　精神保健福祉士 9 名）

【業務内容】

- 相談および連携業務
- 精神科訪問看護
- 共同住居管理
- 各種プログラム協力
- 外部会議出席
- 実習生受け入れ
- 各種調査、アンケート協力
- その他

【今後の展望】

1．相談・連携業務（精神保健福祉士業務）

- 前年度と比較し、実績の延べ件数が増加しており、特に背景把握や治療・療養上の相談が増加。一方、訪問看護を含むアフターケアが減少しているが、これは看護師による訪問が増えたためと考えられる。今後も相談件数は増加の一途を辿ると思われるが、より質の高い支援を提供できるよう業務の見直しや工夫を図りたい。
- 平成26年度は精神保健福祉法および医療法の改正により様々な役割や業務を担い、より一層、多岐に渡る調整や支援を必要とされた 1 年であった。これらが形骸化することなく、実効的な手段の 1 つとして活用していきたい。また、救急病棟開設および精神保健福祉法改正（施行 3 年後見直し）を踏まえた準備を進めたい。

2．精神科訪問看護

- 前年度と比較し、延べ件数や新規利用者は微減したものの、登録者数は微増となった。初発及び症状動揺傾向にある方、身体疾患を併発している方への訪問看護も増えており、ケアの困難度も高まってきている。救急病棟開設等も含めた新たなニーズに対応できるように準備をしていきたい。

3．共同住居管理

- 近年、共同住居利用者の高齢化に伴う心身状態の変化を認める。実際、身体機能の低下や高齢者施設への入居による利用終了があった。高齢精神障害者の地域生活支援という新たな課題に対し、他部署や地域機関との協働を図り、利用者の望む人生や生活の実現に向け、支援していきたい。

4．まとめ

- 総合支援室は「相談・連携業務」「精神科訪問看護」「共同住居管理」の 3 本柱を中心として支援を行ってきた。近年、個々人を取り巻く環境や状況は複雑かつ流動的であり、求められる支援やケアも日々変化している。また、救急病棟開設を控え、これまで以上にレスポンスの良さと地域との繋がりが重要であるとともに、新しい知識や技術の向上も必要となる。平成27年度より総合支援室は外来及びとよさかクリニックと統合し、「地域課」として生まれかわる。職種の垣根を越えた協働をより一層図ると共に、多職種チームの中でそれぞれの職種がその役割を十分に果たせるような新しいシステム作りや取り組みを行い、地域の精神保健医療福祉への貢献と利用者やそのニーズに目を向けた支援の実践を期待したい。

文 責　**吉川　牧子**

【実　績】

(1)　平成26年度　精神保健福祉士業務実績（3階病棟精神保健福祉士を含む）　（単位：件）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診・受療援助		202	231	208	283	290	257	372	203	311	300	292	241	3,190 (+0.9%)
経済問題援助		27	25	26	23	35	43	42	15	26	50	55	68	435 (+23%)
背景・要因把握		89	85	103	108	110	84	88	68	79	105	91	93	1,103 (+26%)
治療・療養上の援助		114	134	124	118	148	120	122	104	162	131	157	114	1,548 (+31%)
社会・家庭生活上の援助		135	135	138	180	155	154	204	129	129	131	124	119	1,733 (+14%)
制度利用援助		246	175	169	174	171	138	124	131	128	111	106	116	1,789 (+2.9%)
退院・社会参加への援助		136	200	190	102	123	128	150	149	180	177	153	165	1,853 (+4.8%)
アフターケア・訪問看護		174	155	147	178	151	191	124	185	172	183	177	185	2,022 (−19%)
その他		145	94	94	140	118	111	129	108	103	132	176	145	1,495 (−18%)
援助方法	面接	493	432	400	433	446	334	394	359	401	443	452	413	4,998 (+7.6%)
	院内調整	143	163	163	143	140	117	149	98	171	125	142	132	1,686 (−34%)
	電話文書	555	557	563	664	636	641	728	533	629	690	650	589	7,437 (+21%)
	院外訪問	77	82	73	66	79	134	84	102	89	62	87	112	1,047 (−35%)
総数		1,268	1,234	1,199	1,306	1,301	1,226	1,355	1,092	1,290	1,320	1,331	1,246	15,168 (+1.5%)

※各項目は新潟県医療社会事業実績報告の項目を基準として分類
※合計欄括弧内は対前年度比

(2)　平成26年度　精神科訪問看護業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ件数	276	247	255	267	253	255	251	205	215	204	208	238	2,874件
稼働日数	21	20	21	22	21	20	22	18	20	19	19	22	245日
1日平均	13.1	12.3	12.1	12.1	12	12.7	11.4	11.4	10.8	10.7	10.9	10.8	11.7件
新規者数	4	2	1	4	3	0	3	3	3	2	2	1	28名
終了者数	1	0	5	2	0	3	3	0	4	1	2	3	24名
登録者数	121	123	119	121	124	121	121	124	123	124	124	122	—

(3)　平成26年度　共同住居入居者数

（単位:名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
金権家 (定員13)	13	12	12	12	11	11	10	10	10	10	10	10
吉田家 (定員12)	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11

(4)　精神保健福祉士業務年次推移

（単位：件）

年度（年）	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年度	H25年度	H26年度
延べ件数	7,653	8,123	6,767	8,650	11,171	16,781	14,934	15,168
月 平 均	637.8	676.9	563.9	720.8	930.9	1118.7	1244.5	1264.0

※平成19年～23年までは年単位集計。
※平成24年度は集計期間修正のため、平成24年1月～平成25年3月までの15か月集計。

(5)　精神科訪問看護年次推移

（単位：件）

年度（年）	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
延べ件数	1,011	1,378	2,258	2,567	2,598	2,937	3,176	2,874
月 平 均	84.3	114.8	188.2	213.9	216.5	244.8	264.7	239.5

デイケア科

【職員数】

8名（看護師3名　作業療法士2名　精神保健福祉士3名）

【業務内容】

デイケアに通所してくる当事者（以下メンバー）に対し、個々の目的達成に向けて様々な活動を提供している。集団プログラムではピアサポーター育成、学習講座、就労支援、SST、認知行動療法、スポーツ、園芸、創作、調理、音楽活動、文化活動、メンバーミーティングなどを実施。

メンバーミーティングでは全員から意見を出してもらうために、小グループに分かれ、イベント企画の立案やプログラム・設備の要望、苦情などの意見交換をし、デイケア運営に反映させている。今年度から開始したピアサポーター育成では第一段階としてWRAP（元気回復行動プラン）のファシリテーターを目指した活動を行っている。学習講座では他部署のスタッフや業者、地域のスタッフと連携し、必要な最新情報をタイムリーに提供している。個人プログラムではパソコン、カラオケ、ビリヤード、卓球、麻雀、将棋、ビーズ手芸、編み物などメンバーのニーズに沿って実施し、まだ集団を苦手とするメンバーにも対応できるようにしている。

また、3ヶ月に1度はメンバーと担当スタッフで面談をし、何ができて、何ができなかったかなどの振り返りを行いながら目標の再設定を行い、デイケアに通う目的の再確認を行っている。

その他、月に1度デイケア科運営委員会において医師や急性期病棟看護師、外来看護師、心理士などと情報交換を行っており、随時当事者のニーズに合わせたサービス提供ができるよう取り組んでいる。

【今後の展望】

ピアサポーターの活動場面の拡大やイベントの企画・運営などメンバー主体の活動を徐々に増やし、自己表現の場やメンバー同士でサポートし合える場を提供していく。

メンバーが目標を達成し、卒業していけるシステム作りを地域と連携して開拓し構築すること、居場所的参加のメンバーにも目標を持って参加出来る様サポートしていく。

また、リスク管理を徹底しメンバーの安全に十分配慮した環境設定の中で、活動が行えるよう配慮する。

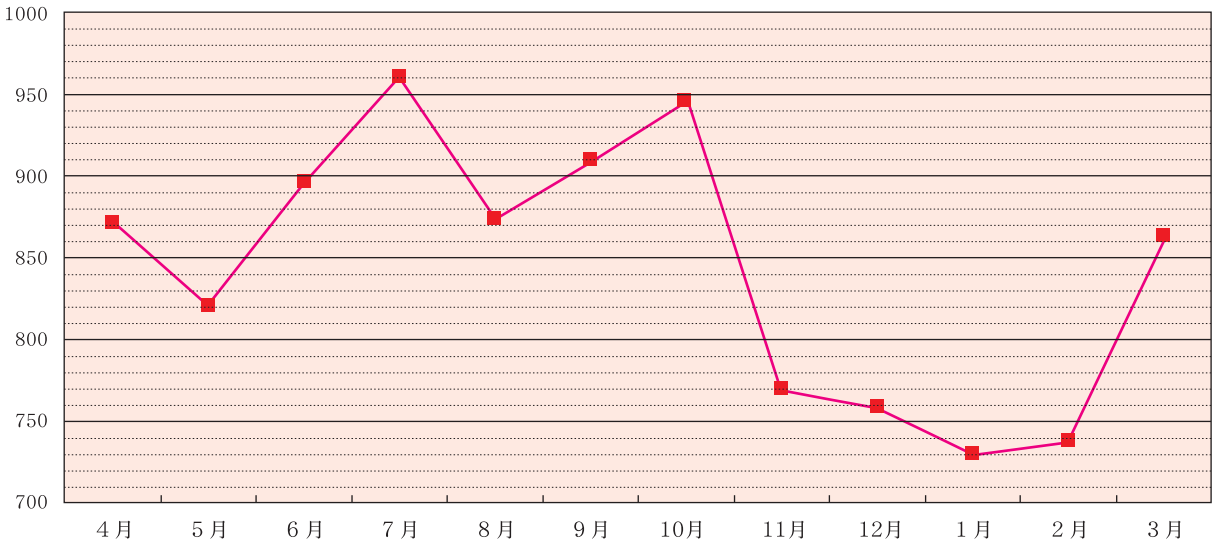
文 責　**布施江利子**

【実　績】

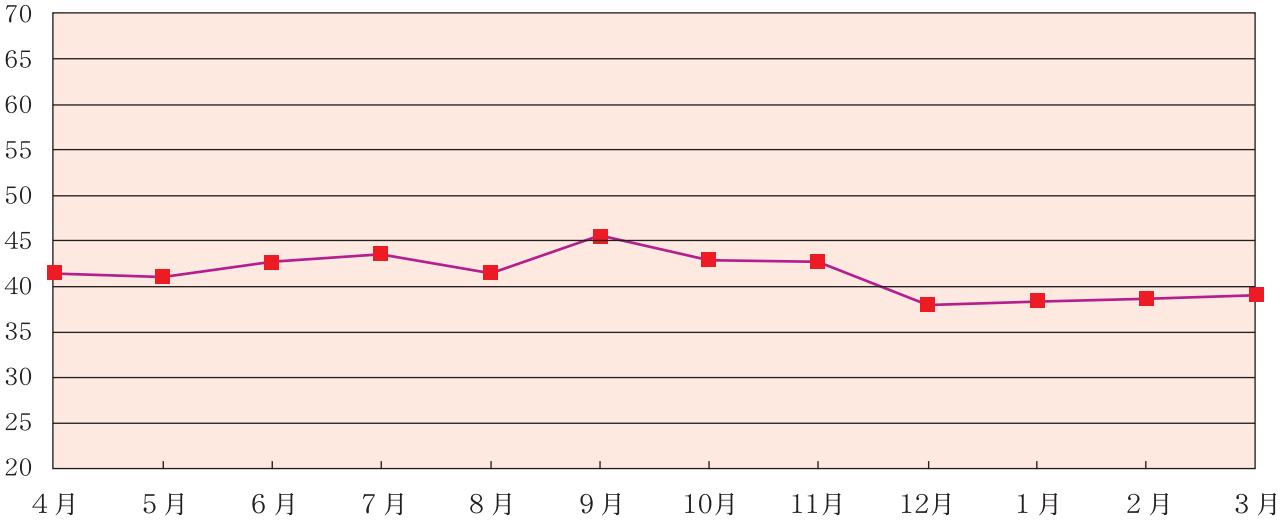
平成26年度デイケアメンバー利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
登録人数	100	101	102	104	105	107	102	103	104	105	105	104	103.5
延べ利用人数	872	821	897	961	874	910	946	770	759	730	738	863	845.1
内ショートケア人数	77	73	84	96	83	99	113	90	97	81	83	100	89.7
稼働日数	21	20	21	22	21	20	22	18	20	19	19	22	20.4
平均利用人数	41.5	41.1	42.7	43.7	41.6	45.5	43	42.8	38	38.5	38.8	39.2	41.4
新規登録	1	1	1	3	1	2	1	1	1	1	0	0	1.1

延べ利用人数



平均利用人数



【職員数】

9名（作業療法士9名）

【業務内容】

精神障がいを発病、または病状が悪化したことで入院治療し、病状をコントロールして地域に戻ることが一般的だが、時に入院期間が長引くと社会性や体力・集中力・判断力などが低下する場合がある。退院後もスムーズに生活を送れるよう集団での人間関係の中で様々な体験を通じてトレーニングを行い、サポートすることが精神科作業療法（以下；OT）である。

医師の指示により入院と外来の患者を対象にOTを実施している。「チームでの関わり」をベースに各病棟の看護師と共に、その病棟の特殊性・患者層に合わせたプログラムを提供している。

特色としては、「個人OT・外来OT」が挙げられる。個人OTでは、身体的な障がいも併発しているケースや個別の関わりが有効と思われるケースに対して担当看護師や主治医が診察時に必要と判断した際に、個人OT指示箋を振出し必要に応じた援助を行っている。入院期間中に体力低下が原因で歩行困難が生じないようにしている。また、外来OTでは、毎週火曜日の午前に1セッション実施しており、小集団を維持することで重厚な関わりを保てるよう人数制限を設けながら退院後の生活適応の一助とすべく行っている。加えて、2階病棟には廃用性症候群の防止を目的に身体リハ担当の作業療法士が専属として精神面の他に身体面へのアプローチを重点的に行っている。

【今後の展望】

作業療法科の基本方針を「安全で楽しく」と掲げ、リスクマネジメントをより徹底し、患者様が自ら参加したくなるような魅力的で効果もあるOTを提供し続けたいと考えている。そして退院後も他者と協調できること、趣味を持ち積極的に生活ができることを目標にプログラムを立案している。また「リスクマネジメントをより徹底する」の具体策としては前年同様に病棟とOTで連携し、適切な靴の指導、プロテクターなどの安全具の着用指導を行い、転倒自体の減少を図るとともに、万が一に転倒してしまっても最小限のリスクで済む努力も合わせて進めて行く。

文責　細野　政昭

【実　績】

◇平成11年５月開設以来、16年目を迎えOTの年間参加者が増加している。

◇月単位の参加者数

〈単位:名〉

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	合計
実数	3,306	3,242	3,414	3,561	3,433	3,403	3,739	3,082	3,421	3,103	2,701	3,622	40,027

◇病棟単位での参加者数

〈単位:名〉

病　棟	1 階北病棟	2 階病棟	3 階病棟	4 階病棟	5 階病棟	合　計
実　数	9,177	9,764	5,154	8,739	6,865	40,027

◇平成26年度　個人OT実施者と延べ回数

〈単位:名〉

病　棟	1 階北病棟	2 階病棟	3 階病棟	4 階病棟	5 階病棟	合　計
患 者 数	0	1	6	6	10	23
延べ実数	0	11	46	107	65	229

◇平成26年度　外来OT参加者数

〈単位:名〉

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	合計
実数	23	29	30	37	22	29	27	26	23	22	24	36	328